

第17回 KOSMOS フォーラム

コーディネーター



松下 和夫(まつした かずお)

京都大学大学院地球環境学堂教授
専攻分野「環境政策論、地球環境の政治経済学、環境ガバナンス論、気候変動政策」

昭和23年生まれ
昭和46年東京大学経済学部卒
昭和51年ジョンズ・ホプキンス大学大学院(修士)修了
昭和47年に環境庁(当時)入庁後、大気規制課長、環境保全対策課長等を歴任。その間OECD環境局、国連地球サミット(UNCED)事務局(上級環境計画官)でも勤務。(財)地球環境戦略研究機関等を経て平成13年11月京都大学大学院教授。現在、国連大学高等研究所客員教授、国際協力機構(JICA)環境ガイドライン審査役、環境経済・政策学会理事、(財)森林文化協会森林研究会幹事なども兼ねる。現在は持続可能な社会を構築するための環境政策を、市民の参加を基軸とした環境ガバナンスの観点から研究。
主な著書に「環境政策学のすすめ」、「環境ガバナンス論」、「環境ガバナンス」、「環境政治入門」、共著に「今なぜ地球環境なのか」、「環境問題と地球社会」、「地球環境の政治経済学」、監訳にレスター・R・ブラウン「地球白書」など。

パネリスト



あん・まくどなるど

国連大学高等研究所いしかわ・かなざわオペレーティング・ユニット所長
専攻分野「日本論、農山漁村フィールドワーク」

1991年ブリティッシュ・コロンビア大学東洋学部日本学科卒
1992年アメリカ・カナダ大学連合日本研究センター研究課程修了
'91年アメリカ・カナダ大学連合日本研究センター(横浜)研究員及び富夢想野塾生。'92年同塾卒業、同年9月同塾塾頭。'93年上智大学コミュニティ・カレッジ講師、'94年マニトバ州駐日代表。'96年清水弘文堂書房取締役役に就任。'97年宮城大学専任講師、准教授を経て、現在客員教授。'99年地球・人間フォーラム客員研究員。'08年現職。日本の農漁村で数多くのフィールドワークを行っている。著書に「原日本人挽歌」「カナダの元祖・森人たち」「原日本人やーい!」「田園有情」など。

パネリスト



沖 大幹(おき たいかん)

東京大学生産技術研究所教授
専攻分野「地球水循環システム」

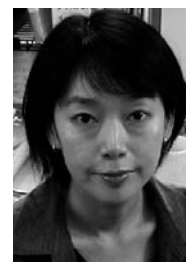
昭和39年生まれ
昭和62年東京大学工学部卒
平成元年東京大学大学院工学系研究科土木工学専攻修士課程修了
東京大学生産技術研究所講師、助教授、総合地球環境学研究所助教授などを経て、現職。全大陸上の河川の流量を推定するなど、陸上での水の循環と世界の水資源について幅広く研究。気候変動に関する政府間パネル(IPCC)第4次報告書主要執筆者。平成20年には日本学士院学術奨励賞等を受賞。共著に「水をめぐると自然—日本と世界の現場から—」や「国土の未来」、監訳に「水の世界地図」、解説に「水の未来—世界の川が干上がる時—あるいは人類最大の環境問題—」など。



加藤 尚武(かとう ひさたけ)

鳥取環境大学名誉学長、京都大学名誉教授
専攻分野「哲学:倫理学」

昭和12年生まれ
昭和38年東京大学文学部卒
昭和43年東京大学大学院人文科学研究科哲学専攻博士課程中退
昭和44年山形大学講師、47年東北大学文学部助教授、57年千葉大学文学部教授を経て、平成6年京都大学文学部教授。傍ら、ボクシング部の部長となり、自らボクシングに挑戦。13年開学の鳥取環境大学学長に就任。17年退任。第19期日本学術会議会員。著書に「ヘーゲル哲学の形成と原理」「バイオエシックスとはなにか」「ジョーク哲学史」「21世紀への知的戦略」「世紀末の思想」「形の哲学」「環境論理学のすすめ」「二十一世紀のエチカ—応用論理学のすすめ」「哲学の使命ヘーゲル哲学の精神と世界」や兄・加藤尚文(労働問題評論家)との共著「トボスとしての家」など。



佐久間 智子(さくま ともこ)

「環境・持続社会」研究センター(JACSES)理事

平成8年~13年、市民フォーラム2001事務局長。現在、アジア太平洋資料センター理事、女子栄養大学非常勤講師、明治学院大学国際平和研究所研究員などを務めており、経済のグローバル化の社会・開発影響に関する調査・研究および発言を行っている。共著書に「どうなっているの?日本と世界の水事情」「儲かれば、それでいいのか—グローバル化の本質と地域の力」「連続講座:国際協力NGO」「非戦」「グローバル化と人間の安全保障」など、訳書に「ウォーター・ビジネス」「世界の水道民営化の実態」「世界の<水>が支配される」など。